

# 家庭的保育のあり方に関する研究(中間報告)(平成19年10月29日) ～概要～

主任研究者 小山 修(日本子ども家庭総合研究所研究企画・情報部長)  
担当研究者 庄司 順一(青山学院大学教授)

## 1. 家庭的保育とは

### 家庭的保育の概要

家庭的保育者の居宅等で主に3歳未満の少人数の乳幼児を対象に小規模に行われる保育

- ・実施自治体数 83か所(2005年)
- ・家庭的保育者数 1,124人(2006年4月)
- ・利用児童数 2,000人(2006年4月)

### 「子どもと家族を応援する日本」重点戦略会議(中間報告)

3才未満児に対する家庭的保育(保育ママ)を含めた多様で弾力的な保育サービスの拡充

## 2. 家庭的保育のメリット・デメリット

### 家庭的保育のメリット

- ・特定の保育者が少人数の保育を行うことから、子どもと保育者間、保育者と保護者間に密接な関係を築きやすく、また個別で柔軟な対応が可能
- ・適切な生活リズムや兄弟関係に近い仲間関係などを経験することにより、集団生活への移行がスムーズになる

### 家庭的保育のデメリット

- ・保育者個人の資質や人間性の影響が大きい
- ・密室性
- ・保育者の孤立
- ・休暇の取得が困難

### デメリット解消の方策

- ・保育者への援助体制の整備
- ・保育所との連携
- ・保育者の身分や待遇の保障
- ・子どもの健康への支援
- ・地域の資源の充実とアクセシビリティの拡大
- ・保育者や子どもとの関係調整のできる第三者機関の設置